



とう立ちに注意し栽培

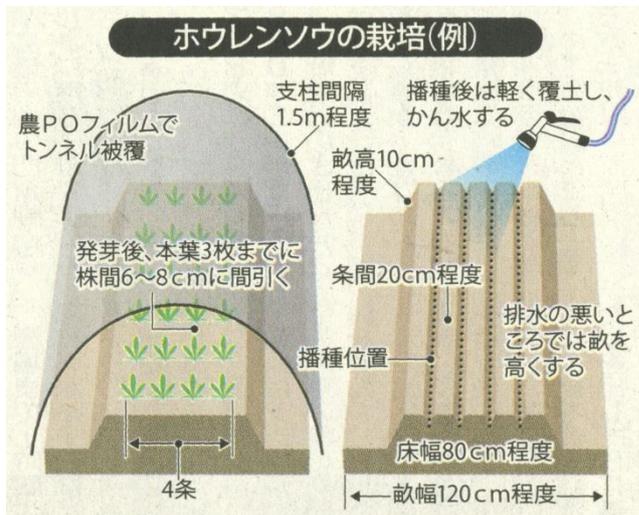
—山方 誠

ホウレンソウは、アカザ科の1，2年草です。

原産地はコーカサスからイランにかけての西アジアです。「ホウレンソウ」の語源は、中国語で「ペルシャ」（現在のイラン）を「菠薐（ばーれん）」と呼ぶところからきています。

ビタミンK，葉酸，鉄分などを豊富に含むことから，ホウレンソウは「緑黄色野菜の王様」とも呼ばれています。収穫時期により，栄養成分に差があり，夏どりより，旬の時季である冬どりがビタミンCは3倍多くなります。

品種は多様で，葉が厚く丸みを帯びる西洋種，葉が薄く切り込みが多い東洋種，その交雑種があります。庭先やプランターで手軽に作れますが，栽培する時季にあった品種を選ぶことが重要で，選択を誤ると，株が大きくならないうちに花芽ができ，花が咲いてしまう「とう立ち」が起こることもあります。



また，酸性土壌を嫌うことでも知られています。

今回は1～2月まき，春どりのトンネル栽培を紹介します。

発芽適温，生育適温ともに15～20度です。条件が良ければ根が深く張り，旺盛な生育をします。酸性土壌では発芽が悪く，生育も抑制されます。

長日・低温下で花芽が分化し，分化後は長日・高温でとう立ちが促進されます。

冬まき春どり栽培では，彼岸を過ぎると日長が長くなり，とう立ちが問題になります。品種は，とう立ちの遅い西洋種や交雑種を用いるようにしてください。

本ぼは，土壌が十分湿っているときに，1平方メートル当たり苦土石灰100グラム，堆肥1～2キログラム，化学肥料100グラム（3要素15%の場合）を目安に施し，耕うんします。

畝幅120センチ，床幅80センチ程度の畝を作ります。栽植間隔は条間20センチ程度とし，間引き後の株間が6～8センチとなるよう播種の間隔を調節します。

冬まき栽培は生育前半が低温下にあたるため，農POフィルムなどの保温資材を利用したトンネル被覆を行って，発芽や生育を促します。

種まき後，軽かん水し，発芽から本葉3～4枚ごろまではかん水を控えます。本葉4枚以降は土壌が乾燥しない程度に，晴天時に適宜かん水します。

収穫までの日数は冬まきで50～60日程度です。大きくなった株から，草丈25～30センチ前後で収穫します。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室研究専門員）

平成26年1月16日（木）／南日本新聞